

2019 年 4 月 19 日
公益社団法人関西経済連合会 都市創造専門委員会

夢洲まちづくり基本計画への提案

夢洲のまちづくりに関しては、「夢洲まちづくり構想」（2017 年 8 月 官民による夢洲まちづくり構想検討会にて策定）をふまえ、2019 年 2 月に大阪府・市による「大阪 I R 基本構想（案）」が取りまとめられ、同年 3 月には「夢洲第 2 期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディング」が実施されるなど、開発の機運が日に日に高まっています。

関経連では、都市創造専門委員会（委員長：香川次朗 関電不動産開発会長）のもと、昨年度から、I R 誘致の実現も視野に、夢洲全体のまちづくりについて検討を進めてまいりました。

夢洲を魅力的な国際観光拠点として観光インバウンドを呼び込み、関西・西日本各地の観光拠点へ送客し、さらには M I C E に参加する高度人材等のビジネスインバウンドとの交流促進を実現していき、観光・ビジネス双方において、関西全体への経済波及効果を高めていくといったビジョンを描きました。そして、その実現にむけた戦略および必要となる都市機能として、島全体での魅力の創出や回遊性の向上、西日本広域への送客機能、高度人材とのネットワーキング機能整備などを掲げ、その具体化にむけて議論を重ねてまいりました。

2018 年 11 月には、夢洲を会場として、「新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装にむけて試行される未来社会の実験場」をコンセプトとする 2025 大阪・関西万博の開催が決定しました。これを受けて、当専門委員会においても従来の議論に加え、万博の会期終了後も継続的に世界から技術・人材を呼び込める実証・実験環境を整備していくことを万博のレガシーとして、どのようにまちづくりの中で実現していくべきか、引き続き議論を深めてまいります。

当専門委員会では、夢洲のまちづくりの検討が本格化することを受け、これまで検討してきた内容を「夢洲まちづくり基本計画への提案」として取りまとめ、行政や関係者との検討の場に提示するとともに、議論の土台として活用していきたいと考えております。

提案内容

夢洲まちづくりのビジョン（別紙 1 ページ）

< ビジョン >

- 国際観光拠点として、世界に誇るリゾート空間の形成による集客・広域への送客効果の最大化と未来社会の実験場として、万博レガシーを活かし、世界と関西の人材・技術をつなぐ「まち」をめざす。

< ビジョン設定の考え方 >

- 「夢洲まちづくり構想（2017 年 8 月策定）」で掲げられた構想の 3 つの柱（Japan Entertainment、Business Model Showcase、Active Life Creation）に、2025 大阪・関西万博のコンセプト（People's Living Lab）を加味し、ビジョンを設定。

※参考

「夢洲まちづくり構想の 3 つの柱」

- ・Japan Entertainment：大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成
- ・Business Model Showcase：新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級の MICE 拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信
- ・Active Life Creation：健康で生き活きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

「大阪・関西万博のコンセプト」

- ・People's Living Lab：新たなアイデアが続々と生み出され、社会実装にむけて試行される未来社会の実験場

夢洲で展開すべき戦略と必要な都市機能（別紙 1 ～ 2 ページ）

< 戦略設定の考え方 >

- 夢洲まちづくり構想の 3 つの柱の具現化、ならびに万博のコンセプトをレガシーとして活用していくために、まちづくり計画を検討する際において、必要となる戦略について検討。

◆Japan Entertainment：大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成

【戦略①】多様な人々に感動を与える島内一体となった世界水準のリゾート形成

【戦略②】周辺エリアとの連携による魅力創出・向上

< 戦略と必要な都市機能 >

- IR に並ぶ第 2 の集客核（テーマパーク等）の設定や舞洲のスポーツアイランドとの連携によるスポーツ MICE 開催、スポーツツーリズムの創出など、周辺エリアとの連携も含めたコンテンツの充実をはかるべきである。
- 広大な島内の回遊性向上にむけては、域内の移動モビリティを充実させるとともに、歩行者が楽しく、快適に歩ける空間形成が必要であり、緑に包まれた空間や飲食施設、イベント広場、憩いの場などを備えた 1 期エリアから 3 期エリアまでつながるシンボリックなエリアを整備すべきである。

< 検討の背景 >

- 「夢洲まちづくり構想」に掲げた年間約3,000万人の集客を持続的に実現していくためには、世界各国から様々な層の人々を惹きつけ、また、何度でも訪れたいと感じていただける魅力あるコンテンツが必要である。（多様な層の集客、滞在期間の長期化、リピーターの拡大）
- 開発面積170haの広大なエリアは、IR事業者をはじめ、多数の事業者が段階的に開発を進めていくことになるが、来街者の回遊性、満足度向上を高めていくには、それぞれの開発において、島内全体での相乗効果や相互補完が発揮される仕組み、仕掛けが必要である。

【戦略③】 関西・西日本広域への送客機能

< 戦略と必要な都市機能 >

- 西日本、神戸等と結ぶ海上アクセス整備による広域送客の充実、関西空港とのシャトル便の運航や海外からのクルーズ船ターミナルの整備によるインバウンドのアクセス向上を実現させるべきである。また、水都大阪を象徴する舟運についても、夢洲という新たな目的地を設定することで、新たな航路の設定や船便の増強による利便性向上や、河川周辺エリアの新たな観光コンテンツの拡充等につなげるべきである。こうした舟運・海運のアクセスの要となるターミナルを、夢洲の護岸に整備していくべきである。

< 検討の背景 >

- 夢洲が関西・西日本の観光の要となる国際観光拠点を目指すうえでは、観光振興に精力的に取り組んでいる関西・瀬戸内をはじめとする西日本広域の各観光拠点との連携が必要であり、各拠点や空港からのアクセスインフラの充実が重要である。道路・鉄道インフラに加え、観光コンテンツの要素も含めた舟運・海運のアクセスインフラの検討が必要である。

◆ Business Model Showcase : 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級の MICE 拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

【戦略④】 MICE 来街者とのネットワーキング、オープンイノベーションの展開

< 戦略と必要な都市機能 >

- 大阪・関西のMICE競争力強化にむけては、既存のインテックス大阪の将来像などを含めた大阪のMICE戦略を早期に検討していくべきである。
- 国際会議等の開催により夢洲に訪れる高度人材に対し、大阪、関西の優れた技術、研究、企業、大学、人材等を発信していくショーケース機能、ならびに交流が促進されるネットワーキング機能を整備していくべきである。
また、夢洲の特性である「更地からの開発」「来街者中心のまち」「広大なフィールド」を活かした実証・実験環境の整備も進めていくことで、グローバルなオープンイノベーションやビジネスマッチングの機会を創出していくべきである。

< 検討の背景 >

- IR誘致による大型MICE施設の整備が実現される事で、MICE誘致の競争力向上が期待される。世界各国から国際会議等に訪れる高度人材に対し、大阪・関西の魅力を発信し、新

たなビジネスの機会を創出していくことが必要である。

【戦略⑤】 I Rに関連する新たな産業創造、人材育成

＜戦略と必要な都市機能＞

- I R事業の運営、課題解決に関連する新たな産業・ビジネスの創出、人材育成をI R事業者と関西の関連企業・大学等が連携し、一体となって取り組める環境（共創の仕組み・仕掛け、コワーキングスペース等）を整備すべきである。

＜検討の背景＞

- I Rは、これまで国内には無かった新たな業態であり、映像・コンテンツ・エンターテインメント産業や、高品質なサービス業をはじめとする多様な雇用創出が期待される一方で、ギャンブル依存症対策等の社会課題の解決も求められる。こうした事業の運営や社会課題の解決をテーマに設定し、I R事業者と行政や関西の企業・大学等が共創し、事業開発や人材育成を進めていく必要がある。

◆Active Life Creation：健康で生き活きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

【戦略⑥】 夢洲全体に広がる高質なリゾート環境

【戦略⑦】 関西の強み・夢洲の特性を活かしたQOLを高める仕組み・仕掛けの構築

＜戦略と必要な都市機能＞

- 広大なフィールドや、海に囲まれた空間を活かし、来街者に対して様々なアクティビティ（サイクリングやジョギングなど）を誘発させ、心身ともにリフレッシュできる環境整備を進めるとともに、ライフサイエンス関連企業や大学などがマーケティングやテストフィールドとして活用でき、QOL向上に関する新たな商品・サービスが創出される環境を整備すべき。

＜検討の背景＞

- 国際観光拠点にふさわしい品格を備えた、日常では得難いリゾート空間の形成においては、歩行者導線や通りの賑わいを考慮した公共空間（道路、公園など）の配置、適正な規模の街区設定、多様な用途の複合施設を計画していくことが重要である。
- 来街者の様々なQOLのニーズに応えられる環境を整えることにより、来街者が夢洲ならではの新しいライフスタイル・ビジネススタイルを体験できるとともに、関西の強みであるライフサイエンス分野の発展につなげる仕組み・仕掛けが必要。

◆People's Living Lab：未来社会の実験場としての環境整備により、世界の人材、技術を呼び込み、関西企業と連携したビジネスを創出

【戦略⑧】 次世代技術の導入や実証・実験環境を世界に発信し、スマートシティ先進都市としてブランディング

＜戦略と必要な都市機能＞

- 更地から開発できるといった夢洲の特性、および万博でめざす「未来社会の実験場」のコンセプトを活かし、グリーンテラスの活用や大規模な規制緩和などによって夢洲全体を次世代技術の導入や実証・実験が可能な「SMART RESORT CITY」とし、利用者からのフィードバックを開発者が直接得られるスマートシティ先進都市としてブランディングすることにより、新たな技術や人々を呼び込んでいくべきである。

＜検討の背景＞

- 万博開催決定を受けて、「未来社会の実験場」というコンセプトをふまえたまちづくりを夢洲で進めるべきである。

参考：都市機能の配置計画例（別紙 3 ページ）

- 前述の都市機能の配置計画例として作成。

以 上

夢洲まちづくり基本計画への提案

2019年4月19日

公益社団法人関西経済連合会
都市創造専門委員会

☆コンセプト「SMART RESORT CITY 夢と創造に出会える未来都市」 [夢洲まちづくり構想（2017年8月策定）]

○拠点形成のための都市機能

JAPAN ENTERTAINMENT
BUSINESS MODEL SHOWCASE
ACTIVE LIFE CREATION

大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成
 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE 拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信
 健康で生き活きた生活を楽しめる革新的な技術などの創出と体験



万博の開催決定を受け、万博のコンセプト（**People's Living Lab**）を追加し、開催後もレガシーを引き継いでいく。

People's Living Lab

未来社会の実験場としての環境整備により、世界の人材、技術を呼び込み、関西企業と連携したビジネスを創出

国際観光拠点として、世界に誇るリゾート空間の形成による集客・広域への送客効果の最大化と
 未来社会の実験場として、万博レガシーを活かし、世界と関西の人材・技術をつなぐ「まち」をめざす。

コンセプト	コンセプト実現に向けた「戦略」	戦略実行に必要な都市機能（施設・公共空間等）
Japan Entertainment	戦略①：多様な人々に感動を与える島内一体となった世界水準のリゾート形成 ・IRに加え、多様なターゲットに対応する様々なコンテンツを集積したリゾート・クラスターの形成	○IRに並ぶ集客核の設定
		○1期、2期、3期をつなぎ、来街者の回遊性向上やワクワク感の演出、心地よく過ごせる空間形成
		○都心に近接した緑・海辺空間を活用した一大アウトドア空間（屋外フェスなど様々なイベントも活用）
	戦略②：周辺エリアとの連携による魅力創出・向上 ・スポーツアイランド（舞洲）やイノベーションハブ拠点（うめきた等）との連携による新たなツーリズム創出（スポーツツーリズム、ナレッジツーリズムなど）	○スポーツアイランド（舞洲）との連携したスポーツMICE（スポーツツーリズムやイベント誘致）に向けた環境整備
		○水都大阪を象徴する水運送客機能整備（淀川を活用した舟運、空港シャトル便など）
		○西日本広域、海外へつながるフェリー・クルーズターミナル
	戦略③：関西・西日本広域への送客機能 ・関西・西日本等での新たな観光ルートの設定や交通アクセス拡充にむけて、河川、海上を活用 ・関西、西日本（瀬戸内等）の多様な魅力あるコンテンツを密度濃く発信（疑似体験等）し、広域への送客、再訪を促進	○バスターミナル整備、ヘリポート整備（広域への送客）
		○最先端技術（MR：複合現実）等を活用した観光拠点の疑似体験施設

コンセプト	戦 略	戦略実現に必要な都市機能（施設等）
Business Model Showcase	戦略④：MICE来街者とのネットワーキング、オープンイノベーションの展開 ・既存のMICE施設との連携により、誘致競争力の向上 ・MICEに訪れる高度人材と関西企業・大学・人材とのネットワーキング機能 ・関西の技術に触れ、オープンイノベーションが促進される技術のショーケース機能	○IR事業者のMICE施設と既存MICE施設の相互補完、相乗効果を発揮（インテックス大阪の将来像の早期検討が必要） ○MICE来街者とのネットワーキング、オープンイノベーション実践施設 ○関西の技術のショーケース施設 ☆万博レガシーの活用
	戦略⑤：IRに関連する新たな産業創造、人材育成機能の導入 ・IR事業に関わる社会課題や事業運営に関わる課題等に対し、IR事業者と関西企業との協業による新たなビジネス創出（コンテンツ開発等）や人材育成（ホテル人材、コンテンツ技術者など）	○IR関連産業・研究に関わる企業、大学等のコワーキング施設 ・依存症対策（脳・行動科学等） ・舞台装置、映像技術 ・エンターティナー・ホテル人材育成
Active Life Creation	戦略⑥：夢洲全体に広がる高質なリゾート環境 【特に公共空間】 ・夢洲全域に広がる、国際観光拠点にふさわしい品格を持ったリゾート空間 ・日常では得難い“リゾート”環境で、新しいライフ・ビジネススタイルを実現	○リゾート感あふれる景観形成にむけた公共空間整備 ○来街者が歩きたくなる魅力ある歩行者道路の整備（ジョギングやサイクリングなども誘発） ○水辺を活かしたリゾート空間の整備とアクセスルートの確保
	戦略⑦：関西の強み・夢洲の特性を活かしたQOLを高める仕組み・仕掛けの構築 ・QOLに関する多様なニーズに対し、関西の強みであるライフサイエンス分野の研究を活かし、来街者の満足度向上とライフサイエンス産業の発展につなげる	○健康増進や趣味を楽しむ為の多様なフィールド・マリンアクティビティの整備と関連産業の参画 ☆万博レガシーの活用
People's Living Lab	戦略⑧：次世代技術の導入や実証・実験環境を世界に発信し、スマートシティ先進都市としブランディング 【世界の技術が集積するまち】 ・未来社会の実験場“リビングラボ”整備により、関西技術のグローバル発信と世界の技術を呼び込む ・関西の最先端技術やデータサイエンティストによるビッグデータの高度分析により来街者の満足度を最大化するスマートシティを実現	○様々な分野の最新技術の実証・実験機能を整備 - 利用者のフィードバックを開発者が直接得られるサンドボックス型実験都市（次世代モビリティ、エネルギー、データ利活用など） ☆万博レガシーの活用
		○来街者のホスピタリティ向上に向けた最新技術を活用したスマートリゾートシティを形成

※集客数：3,000万人/年を想定（リゾート集客核を設定しない場合は、2,000~2,500万人/程度）



今後は、万博のコンセプトである「未来社会の実験場」をどのように夢洲のまちづくりの中へ取り入れていくべきか、引き続き議論・検討を深めてまいります。